



(株)AP代表取締役  
(株)Pure Diamond代表取締役  
AWDC Diamond & Antwerp大使  
(一社)日本グロウンダイヤモンド協会代表理事

### 石田茂之

ishida@pure-dia.com

米国の状況を見れば、日本もワクチン接種率が広まれば、景気は急速に回復すると考えられます。とはいえ緊急事態宣言によって景気の回復は年末商戦に間に合わないとの予測が多いのが現状です。また、コロナ禍で大きく変化したのは何と言ってもDXの進歩ではないでしょうか？ 特にD2Cによってラボグロウンダイヤモンドは、今年から大きなビジネスの成果が出ております。天然ダイヤモンドは世界的にティファニー社の後を追いかけるかたちで、トレーサビリティを明確にしていく方向へ進んでおります。

ダイヤモンド輸入商社の2代目として生まれ、約40年間ダイヤモンドビジネスに携わり、ラボラトリーグロウンダイヤモンドと天然ダイヤモンドの両方を熟知するダイヤモンドのプロフェッショナルとして、それぞれが全く異なった方向性で進んでいる事を伝えようと思っております。

そもそもラボグロウンダイヤモンドと天然

## ダイヤモンドビジネスの現状と方向性

ダイヤモンドの流通には、大きな差があります。主な流通において、ラボグロウンダイヤモンド(CVD)は米国やインドなどでシード(種結晶板)から成長させて原石ができ上がります。それを生産者がそれぞれカットして日本等の国に輸出されます。日本の輸入業者は製品化し、SNSなどで拡散しながらWEB販売しております。つまり海外のラボグロウンダイヤモンド生産者から直接輸入した日本の商社が製品化し、コンシューマーに販売するというシンプルな流れにおいて、ラボグロウンダイヤモンドの流通は中間業者を必要としないことで中間マージンもなく、プライス的にもリーズナブルになります。

これに対して天然ダイヤモンドは、アフリカやロシアなどの地中の奥深くで約30億年をかけて結晶化され、火山によって地表まで噴出したダイヤモンド原石として採掘されるのです。鉱山会社で採掘されたダイヤモンド原石は主要な場所に集められアソートされてから、インドや中国などの研磨工場で研磨されます。その後は日本などの輸入会社が輸入して卸売業者などに渡し、最終的に製品化された物が小売店に並びコンシューマーに販売されるという流れになります。つまり中間業者が多く入るビジネスモデルなのです。しかし、この天然ダイヤモンドのビジネスモデルは、色々な人の手に渡り長い時間をかけて世界を旅した後にコンシューマーの手元に渡るというストーリーそのものが天然ダイヤモンドの価値と考えられます。

米国ではラボグロウンダイヤモンド販売の8割近くがWEB経由と言われ、実際にラボグロウン業者の多くがコロナ禍でも数字を落としていないのが現状です。このようにWEB販売が先行しているラボグロウンダイヤモンドビジネスは、天然ダイヤモンド同様の卸売業者や小売店等の中間業者を介する販売方法は難しいのではないのでしょうか？ もちろん希少価値が高く、価格もかなり高額になる天然のファンシーカラーなどの魅力は、ラボグロウンダイヤモンドでしかリーズナブルな価格で展開ができない為、WEB以外の販売も可能であると考えます。オーストラリアのアーガイル鉱山が昨年閉山になり、今後はラボグロウンダイヤモンドのピンクカラーなどのファンシーカラーダイヤモンドは大きく需要を伸ばすと考えられます。

天然ダイヤモンドにおいては、まずは、なぜラボグロウンダイヤモンドと比べて価格が2倍や3倍と大きく異なるかという問いにどう答えるかがポイントになります。確かに中間業者が多いからに違いありませんが、それだけ世界中を旅して、最終的にコンシューマーの手元に届く素晴らしさを伝える必要があると思います。採掘された国、丁寧にカットされた様子、そしてお客様の手元に届くまでのストーリーを、スマートフォンなどのデジタルデバイスで見せることができるのです。天然ダイヤモンドにおいてもDXが活用されるでしょう。

製品そのものにおける方向性の違いは、主にアンバーサリー市場では圧倒的に天然ダイヤモンドの需要が中心になります。ラボグロウンダイヤモンド市場はファッションジュエリーが多く、しかもシンプルなデザインではなく、WEB上で見栄えのする派手で可愛いデザインがトレンドで、店頭で在庫にす

るのは敬遠されがちなジュエリーがヒット商品になる傾向にあります。ブライダル市場ではストーリーのある天然ダイヤモンドが中心の状況がしばらくは続くと思います。

次に国際社会共通の目標となるSDGs(持続可能な開発目標)が話題ですが、今後はダイヤモンド業界においても大切なキーワードになることは間違いないです。これに関してダイヤモンドはどうなっているのかとの答えを持つ必要があります。ラボグロウンダイヤモンドがエコフリーである事をPRしながら販売を伸ばしている以上、天然ダイヤモンドもその点をどう説明していくのかを考える必要があります。もちろん今すぐに全てをクリアにする必要はありませんが、取り組みによってできている事はしっかりとアピールしなければなりません。ラボグロウンダイヤモンドも天然ダイヤモンドも研磨では同じ工程を踏むので取り組みは必須と考えます。すでにカーボンニュートラル(グリーン)を考慮したCO2排出量収支をゼロにする動きが始まっており、早ければ年内にESG課題を反映したダイヤモンドが世にデビューします。ダイヤモンドジュエリーは嗜好品といえども、グリーンなダイヤモンドこそコンシューマーに必ず受け入れられると考えられ、逆にそれをうたえない商品は今後避けられる可能性があると思われられます。

物質的に全く同じダイヤモンドである天然ダイヤモンドとラボグロウンダイヤモンドですが、これだけ大きく方向性が異なります。しかし、どちらも今後のキーワードは「デジタル」と「グリーン」である事は間違いありません。毎回Qualityで投稿させて頂く内容通りにダイヤモンド業界の方向性が進んでいると多くの方からお話を頂き感謝しております。先が読みにくいコロナ禍において、少しでも参考にして頂ければ幸いです。

クラスプにも美しさを

## Neoシリーズ

Mサイズが新登場！  
シルバーカラー・ゴールドカラー  
各サイズご用意しております。



### Neo クラスプ

真珠などのネックレスにつけるクラスプタイプ



### Neo マグスプ

チェーンに後付けできる加工のいらないタイプ

STEP 1

STEP 2

STEP 3



両端をつまみます



ポキッと0.1秒!



外れにくいのにつけ外し簡単!

Sサイズ Lサイズも好評発売中!



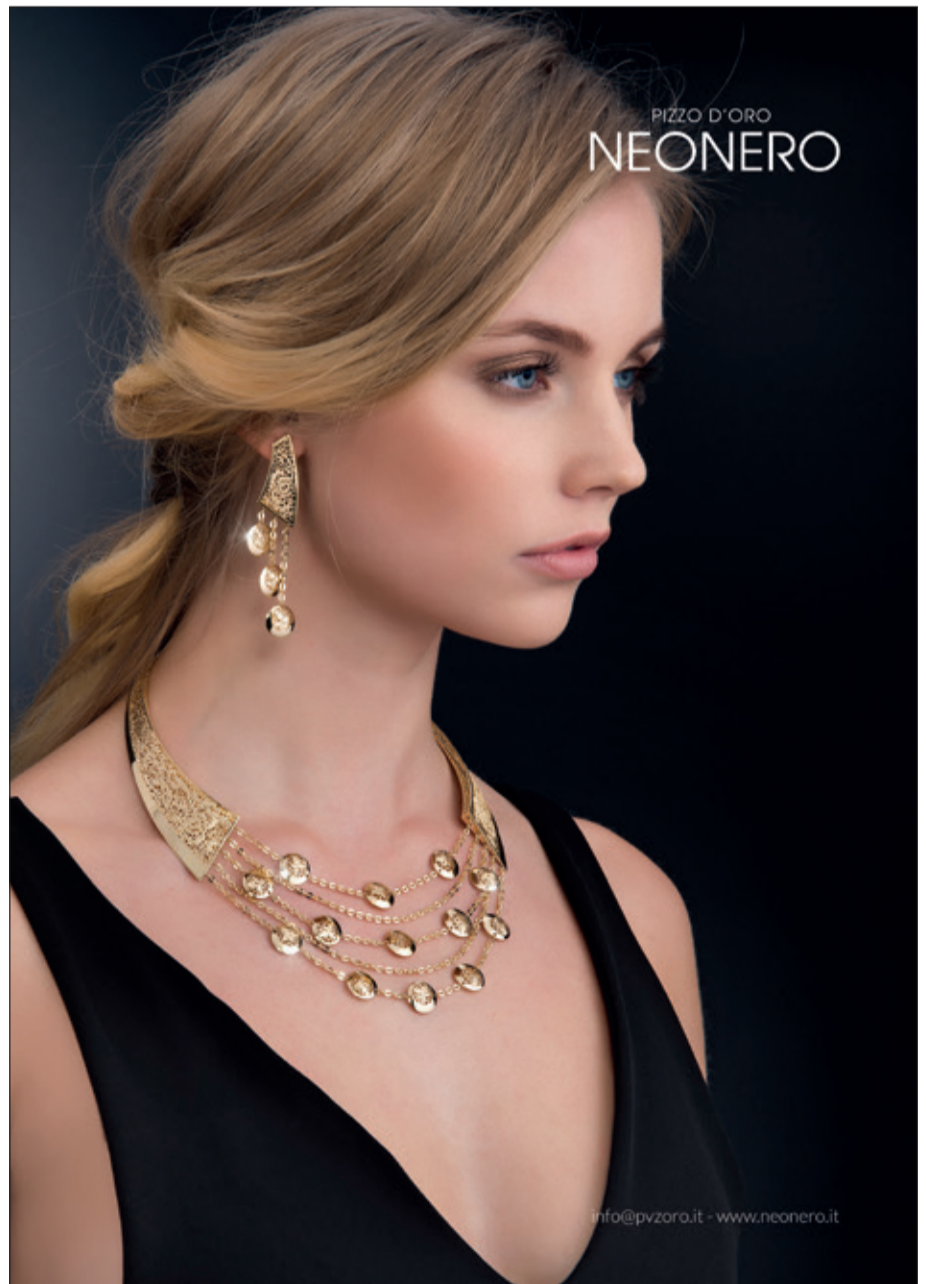
Sサイズ



Lサイズ

〒110-0016  
東京都台東区台東 4-8-7  
ビューリック仲御徒町ビル 8階  
TEL: 03-5688-6081  
Mail: info@ecmis.jp  
担当: 遠山

株式会社エクミス



販売元:株式会社ミツムラ 〒110-0015 東京都台東区東上野2-13-12 M&Mビル8F TEL.03-3832-6186 FAX.03-3832-6189